
綾崎ハヤテ—Fall in love—アナザーストーリー(8 ~ 1 0 話)

arutema

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

綾崎ハヤテ―Fall in love―アナザーストーリー（8～10話）

【Nコード】

N4607J

【作者名】

arutema

【あらすじ】

僕のはやヒナ作品内の第8～10話のアナザーストーリーのような話です。英語アレルギーの方にはおすすめてできません。

（前書き）

お待たせしました…待ってない方はここまで来ていないでしょうか、ここにたどり着いてくださったことに感謝です！

内容は…こうしかないでしょう！という感じです。はい。

ちなみに、一部矛盾があります。というのも、ヒナギクがやるはずのないことをしています。どうしてもその表現方法に苦しんで…そのままにしてあるんです。

しかもそれが最後のヒナギク視点だから痛いです…アドバイスください。

「どうする？」

「僕はどっちでもいいよ。だから、ヒナギクさんが思っ通りでいいんだよ」

「ハヤテ君…ごめん…」

その前後で白皇学院、そしてその周りの環境も変わり果ててしまった。

あれから1年が経って、もちろんハヤテとヒナギクはメールもし合っていたが、ある日、ハヤテはヒナギクに手紙を書いた。

注：桂姉妹の旧姓が不明なので、伏せてます。

『Dear Hinagiku、(ヒナギクさんへ)』

It was the day following year when you left here that I wrote this letter. (この手紙を書いたのは、ヒナギクさんがここを飛び立った来年の今日です)

After your having left, many things has changed in this year. (ヒナギクさんが飛び立つてからこの1年で、いろんなことが変わったよ)

How's your life in the United States? (そつちでの生活はどうか?)

I wish you have a good time. (楽しんでるといいな)

I hadn't cried for a year about the happening, but I had recently. I'll tell you about the story. (この一年、そのことでは泣かなかった。でも、最近泣いちゃった。今回はそのときの話をするね)

『Hayate, let's go to the amusement park!』 Milady said. (『ハヤテ、遊園地に行くぞ!』お嬢様がそう言った)

『To、the Naginagi land、?』I said. (『ナギナギランドへですか?』そう言った)

『No、there where ordinary persons visit around here!』(違う!この辺りで一般人が行く場所だ!)

『I...I see.』(は、はあ...)

There was the place where we went on the first date. (そこは僕達が最初にデートした場所だったんだ)

We rode so many attractions because we little waited since our tune comes. (僕達に順番が回るまでほとんど待つことがなかったので、本当にたくさんのアトラクションに乗れたよ)

And last...

Hayate, let's ride that merry

go-round lastly!』(ハヤテ、最後にあのメリー
ゴーランドに乗るぞ!)

It started with our riding.(僕達
が乗ったまま、動き出した)

Suddenly...Milady said,H...hey,
Hayate,w...why are you...cryin
g?、(突然：お嬢様が「お、おいハヤテ、ど、どうしてお前：泣
いておるのだ?」と言って)

Tears ran down my face.Perhaps
.I was reminded of the date w
ith you.(僕の顔を涙が流れていた：きつとヒナギクさん
とのデートを思い出したのかもしれないな)

I was learned by this event.Wh
at do you think?(このことで学んだことがある
んだ。なんだと思う?)

I was learned that...

I s t i l l l o v e y o u t h e b e s t
まだ君が一番好きだっていうことだよ

H o w a b o u t y o u ? (ヒナギクさんはどうなのかな?)

s i n c e r e l y , H a y a t e A y a s a k i (綾崎ハヤテ
より)』

「よかった…ハヤテ君、寂しく思ってたんだ…でもハヤテ君、どうして手書きなのかしら？メールでも…あ」

今さらながら、ヒナギクはこれが封筒に入っていたことに重要性を持っているような気がした。というわけで、ヒナギクは封筒をもう一度調べてみる。

「あっ
」

よく調べてみると、もうひとつ、何かが入っていた。

それは、ハヤテとヒナギクで撮った、唯一のツーショット写真だった。

「ねえ、写真撮ろう！初めてのデートの記念にさー！」

「えっ？用意してたの？」

「うん。だって、初めてのことで結構思い出になったりするでしょ？…だから、いつでも笑って見られるようにしようね」

遠回しに『ずっと一緒にいよう』という意味だと気付いたヒナギクは、思わず赤面する。

「…うん！」

それでも、自分の出せる精一杯の笑顔で、そう答えた。

「懐かしいなあ…」

それから1週間後の早朝。

「ハヤテ君」

「あ、はい？」

「あの、これ、ハヤテ君宛てにポストに入っていましたよ」

「えっ？」

もちろん驚くハヤテ。自分宛てに手紙が来ることなど、今年の年賀状以外は今までなかったからだ。

「どうぞ」

「ありがとうございます。誰からだろうっ…？」

ハヤテは一旦自室に戻り、開封する。

「あっ…！」

ハヤテの顔がほころぶ。手紙であろう数枚が組になった紙の一番外の裏面には…

With love, Hinagiku Katsura

と書かれていた。

「あはは…もしかして…」

そのハヤテの読みは当たっていた。

というのも、ヒナギクのいつもの性格が出ていたと思ったのだ。日本にずっと住んでいるハヤテが英語で書いて、1年とはいえアメリカに住んでいる自分が書かないわけにはいかない。負けた気がするから…という読みだった。

なんともひどい読みである。

何はともあれ、ハヤテもヒナギクと同じように、ゆっくりと紙を裏返して、文章を読み始めた。

Dear Hayate Ayasaki,

Thank you for your letter. I'm
so glad. (手紙ありがと。とっても嬉しいわ)

Your English is getting better.
You study hard, don't you? (ハヤテ君
の英語、よくなってきたわよ。一生懸命勉強してるんでしょ?)

I'm going to tell you about my life here. (こっちでの生活について、教えるわね)

The place where I live around here is a countryside. (私が住んでいる場所(↓家)の周りは田舎なの)

If I were Nagi, I might not be able to live (laughing). (もし私がナギだったら、住めないかも(笑))

Of course, I go to the high school. (もちろん高校も通ってるわよ)

I made some friends, so I want to introduce to you someday. (友達も何人かできたから、いつか紹介したいな)

The picture you sent me is the only one which we took together, right? (ハヤテ君が送ってくれた写真って、私達と一緒に撮った唯一の写真よね?)

Me too, it reminds me of our first date. (初めてのデートのこと、私にも思い出させてくれるわ)

But... do you think I had throw it away? I'll return it to you. (でも、私がそれを捨ててると思う? ↓) でも、私も持つてるわよ。だから、返しておくわね)

I . . . A L S O miss you , and want to see you . . . (私『も』: ハヤテ君がなくて寂しい) ↓恋しい) し、会いたいよ...)

もう少しで忘れるところだったわ。プレゼント(写真)ありがとね。とっても嬉しい!)

But , please be careful of your money . (でも、お金には気をつけてね。 ↓あんまり無理しないでね。)

By the way , I started working for the school again . (話は変わるけど、私、また学校のために働き始めた(↓生徒会に入った) の。)

I decided doing to get rid of loneliness by concentrating something . (何かに集中することで、寂しさを取り除けるかなって思ったから)

But . . . it was my mistake . It reminds me of my life in Japan . (でも、間違ってた。日本での生活を(逆に)私に思い出させたのよ) You often helped us , right ? I remember that . (ほら、ハヤテ君、よく私達(生徒会役員)を助けてくれたじゃない?それを思い出しちゃって...)

So , I continue studying hard . (だから私、頑張って勉強してるわ。)

How about yours ? Become in orde

r not to be taught by me . (ハヤテ君
はど^うなの？私に教わるようにはならないでね。)

I have many things to tell you ,
but all I want to tell you is
the answer of the letter you w
rote . (いろいろ言いたいことはあるけど、
(とりあえず)ハ
ヤテ君が書いた手紙の答えだけしておくわ。)

I LOVE YOU , TOO !

with love ,

Hinagiku Katsura

今は名字が異なるものの、ハヤテが相手なので桂という名前にして
あった。

そして、GWのある日のこと。

「…というわけでハヤテ君、お留守番の方をよろしくお願いしますね」

帝の緊急召集に呼び出されたナギ。この広い屋敷を空けるわけにもいかず、誰か留守番をしなくてはいけなかったが、帝はクラウドとも久々にいろいろ話がしたいということで、ハヤテが残ることになった。

「悪いな綾崎、ではよろしく頼むぞ」

「はい、お任せください！」

いつもと変わらないハヤテの顔を見て安心したのか、それ以上は誰も何も言わなかった。

「では行くか…面倒だが」

「はい」

後半の一言にはあえて反応しなかった。せつかくナギがその気になっているのに、それに口出しをしたら、その気を消してしまうだろうと思ったからだ。

しかし、ナギは確かに仕方なく行くのだが、『曲げようのない』仕方なくだったのだ。なぜなら、それはハヤテのためでもあったからである。

ヘリコプターで移動中。

「なあマリア」

「はい？」

「最近のハヤテ、おかしいよな？」

「そうですねえ…あの手紙をもらってからですよね」

ハヤテに渡したのが何をかくそうマリアなので、それだけは知っていた。

「何か重大なことでもあったのか…それとも他に何か…？」

「それにしてもナギ、珍しいですね、こんなにあっさりおじいさま訪問を受け入れるなんて」

「まあな。ハヤテに一人になって、とりあえず落ち着いているいろいろ考えてほしいというのが最大にして唯一の理由だな」

せめて1厘（千分の1）でも1毛（万分の1）でも帝に顔を見せたという気持ちがあったっていいだろう…そう思っただけ苦笑するマリアだった。

「では、早く終わらせてしましましょう。ハヤテ君をずっと一人にさせるわけにもいきませんからね」

「ああ、もちろんだ」

一方…三千院ナギ宅。

「…」

ハヤテはしばらくもらった手紙を見つめていた。

「ヒナギクさん…」

気付いたら同封されていた写真に移った彼女に向かって、その名前を呼んでいた。

「ふう…」

考えても仕方がないことくらいは分かっている。しかし、ヒナギクは今でもハヤテの目の前に居続けていた。そして、あの手紙を受け取ってから、その存在が自分に自分でも制御できるかぎりぎりというところまで大きくなってしまっていた。

と、そのとき、屋敷内を鐘の音が支配した。

「あれ、お客様だ」

それは三千院邸の呼び鈴だった。

ハヤテの部屋は天井裏にあり、なかなか聞こえる音ではないが、そこは静かだった分、聞こえた。

「はい？あつ…！」

ハヤテがドアを開けるなり、その胸に飛び込んでくるものがあつた。ドアが閉まる。飛び込んできたものに反応しきれなかったハヤテは、そのまま屋敷内に入ったため、ドアが当たることはなかった。

「ひ…ヒナギクさん…？本当に…？」

「かつ…ら…ヒナギ…ク…よ」

見間違えるはずはなかった。その見た目、その声、その感触…。名前さえとぎれとぎれになっているところを見ると、泣いているようだ。

「……た…と…！」

なぜか人間はこんなとき、最後の文字は強く言つものである。

「僕もだよ…ずっと…想つてた…」

「ハヤ…テ君…！」

1年間という時間を費やし、再び出会ったハヤテとヒナギク。この1年は、2人をより強くさせた。

それと同時に、優しくも…。

「ハヤテ君…好きだよ、今でも…！」

「僕も…大好きだよ…！」

My feeling is waiting here instead of saying I love you. (『好きだよ』って、言う代わりにここで(私の気持ちは待ってる↓)咲いてる)

確かに待つことも大事なときはある。しかし、分かっている、言葉にする、しないの差は歴然。

あのときからずっとハヤテが好きだった。でも、言えなかった。言わなかった。だから、たとえ両思いだったとしても、何も進まなかった…。

でも、今なら言える。あのときのような後悔は二度としない。したくないから。

好きな人ができたらいなくなるような気がする…確かに今も怖い。

しかし…いや、だからこそ、今、伝えられる全てを伝える。ハヤテに尽くす。

自分が後悔しないために…

そして、ハヤテの笑顔のために…。

（後書き）

少し遅れてしまいました。 すいません。

センターが昨日で終わり、ようやく落ち着いて… いられませんが、一応一段落ついたので、投稿させてもらいました。

はつきり言って、このときほど語彙力のなさを感じたときはありません。そして、間違いもかなりあると思います。遠慮なく言うてください！（今回は場所までは結構です）

改めて日本語に直すと…直してもわけが分かりませんね、いや本当に（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4607j/>

綾崎ハヤテ—Fall in love—アナザーストーリー(8～10話)

2010年10月9日22時02分発行